

大谷中学校・高等学校

令和5年度学校関係者学校評価委員会

【日 時】 令和6年6月25日（火） 13:30～15:00

【場 所】 大谷中学校・高等学校 B26教室

【出席者】（敬称略） 13名

北本 義章	大阪市立松虫中学校校長
三木 健史	大阪市立丸山小学校校長
内田 友樹	(株)ERP 教育プロ代表取締役
富田 晃司	大阪大谷大学副学長
油田 学	保護者代表（前PTA会長）
吉川 智春	保護者代表（現PTA書記）
古市 英里	卒業生代表（成美会）
萩原 英治	校 長
三木 栄子	教 頭
村井 康容	教 頭
澁谷 敬史	教務部長
嶋崎 信武	生活指導部長
河野 さち子	進路指導部長
田所 トシヨ	英語・海外教育部長

1) 開会挨拶 校長 萩原 英治

2) 出席者紹介 校長 萩原 英治

3) 資料

資料1『令和5年度	大谷中学校・高等学校 学校評価』
資料2『令和5年度	生徒アンケート』
資料3『令和5年度	保護者アンケート』
資料4『令和5年度	教員による学校自己評価』
資料5『令和5年度	生徒・保護者・教員アンケート概要と総括』
資料6『令和6年度	学校経営計画及び学校評価』

令和５年度 学校経営計画及び学校評価

１ めざす学校像

114年の歴史を持つ本校は、3万人を超える幾多の人材を輩出し、女子教育に邁進してきた。その伝統を引き継ぎ、 １ 報恩感謝の精神に基づく宗教的情操教育を通じて、慈悲の心を有する優しい女性を育成する。 ２ より高度な学力養成をはかり、自ら課題を発見し、解決するための論理的思考力、判断力、表現力を高め、高い知力を備えた聡明な女性を育む。 ３ 宗教的情操教育を基盤とした生活指導により、礼儀正しい美しい女性を育てる。 以上により、人間力に秀で、グローバルに活躍し、社会に貢献する女性を育成する。
--

２ 中期的目標

１． 学習指導 ① 学習指導を工夫し、教員の授業力を向上させる。 ② コースに応じた学力向上の取り組みを強化する。 ③ 学習習慣の確立と基礎学力の定着をはかる。
２． 進路指導 ① 生徒の進路や個性に応じたコース編成で一人ひとりの力を最大限に伸ばすべく、個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導を図る。 ② 中高の六年間を生徒の成長に沿った適切な進路指導の展開に努める。 ③ 将来、社会で生き抜いていく確かな力を身に着けさせるため、キャリア教育を通じ、自己の適性や社会との関わりを意識させることで、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できる人間に育てるべく、様々な取り組みを工夫する。
３． 生活指導 ① 「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」「時間厳守」を年間生活目標に設定する。 ② 生徒対象に防災教育、ＳＮＳや薬物の危険性、心肺蘇生の講習などを実施し、生徒に対して啓発に努める。 ③ 教員対象に生活指導や生徒相談に関する研修を実施し、情報を共有し、全職員で指導にあたるべく努力する。安全で安心な学校づくりのため、カウンセリングや必要に応じた教育支援の充実、学園カウンセラーとの連携などを通じた指導の充実を図る。
４． 海外教育 ① グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成する。 ② 異文化理解に努める。 ③ 英語によるプレゼンテーションの向上を図る。 ④ ニュージーランド１年留学・３か月留学を通じて、実用的英語力の涵養を図る。
５． 生徒募集・広報活動 ① 中学校入試では入試行事参加者を増やし、募集定員確保のため積極的に広報活動に努める。 ② 高校入試では幅広く周知できるよう広報活動を徹底し、募集定員確保を目指す。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [６年 ２月実施分]	学校評価委員会からの意見
令和５年度、ようやく平常の学校生活を取り戻し、学校行事は制限なく実施できるようになった。子供たちも少しずつではあるがマスクから解放され、元気を取り戻してきたように思われる。 令和５年度のアンケートは、教員７３％、生徒７２％、保護者６９％の回答率であった。生徒のアンケートからは、「入学して一番満足していること」が、「友人との関係」になっている。 教員に関しては、非常勤講師までアンケート配信した為、非常勤講師が答えにくい内容があった。そのため数値的には変化があったが、内容的には例年と同じように、建学の精神である宗教的情操教育については、高い評価となっている。 学習指導においては、評価１と２を合わせると「ICT 機器を利用した授業」８０％「生徒の思考を促す授業」７５％の高評価である。 また、「学習指導計画」や「個々の生徒に関する情報交換」は昨年同様の高評価となっている。反対に、「他教科との情報交換」「新任教員育成」については、継続課題となっている。特に非常勤講師からすると「授業方法の伝達指導」が課題と思われる。 生活指導においては、評価１と２を合わせると「家庭との緊密な連携」「教育相談の体制整備」が７７％となっている。また、「校則」や「人権尊重」について、「教職員間で話し合う機会がないこと」は継続課題として残されている。学校の経営状況については、半数以上が理解していないと回答しているが、これも非常勤講師の回答が影響していると思われるが、それにしても「学園本部と学校との意思疎通」は大きな継続課題として残っている。	・生活指導部より挨拶についての話があったが、大谷中高の生徒は、本校の前を何人か通るが、挨拶をすれば必ず返してくれる。小学生でもなかなか挨拶は定着していないが、大谷の教育はとても大切なところを押さえている。防災避難訓練は中高生は支援する側に立つことになるので、継続してやってほしい。 ・海外教育で、ＳＤＧｓに関するお話があったが、小学生でもやっているのも、高学年ではどう展開するのか気になった。 ・小学生の保護者と話していると、私学進学に対する意識が高い。私学は受験生の取り合いになるかと感じる。大谷は理系教育に力をいれており、サイエンスフェスタの案内チラシなども本校に届いており浸透していると感じる。 ・中３が進路選択をするにあたって、年々公立離れを感じている。私学はそれぞれ魅力のあるコースを作られており、自分にあったところを選択する生徒が増えてきている。大谷の生徒の様子をみても、とてもよい雰囲気を感じるが、６年一貫のイメージが強く、高校からの進学のハードルが高いように思われている。総じて学校がしっかりと教育されている感じを受ける。 ・教育プロの月刊誌の裏表紙と表表紙に大谷と東大谷を掲載させてもらっているが、実在している生徒の写真の表情もとてもよい雰囲気である。「挨拶」は本当に大事であると、うちの顧問も力説している。先生方が毎日挨拶をしているとそういった雰囲気になる。教育する姿勢を正す根本は「挨拶」であり、宗教がバックボーンにあり、精神的な教育をしている大谷は強いと思う。 ・教育現場で、ＳＮＳ対応や、薬物への知識は大切であり、生徒に及ぼす悪影響が大きいことを、危機感を持って伝えることが大切である。 ・大谷は理系教育が有名であるが、グローバル教育とともに、日本古来の文化を重視していくことも大切であると考える。(凛花コースは、華道・茶道も取り入れている) ・アンケートの結果をみても、総じてしっかりとした教育ができていていると思う。生徒への質問に「学校の教育に満足しているか」といった直接的な問いがあってもよいかと思う。進路指導の長期的な目標を明記して、目標とする学校像を示すのもよいかと思う。 ・凛花コースはとてもよい教育内容を行っている。他のコースも含め、大谷は伝統のある先生方もとても親身になって生徒・保護者に接してくれる学校である。PRをもっとしてほしい。 ・今年度導入された放課後学習システムはとても満足している。他校では、第一志望でない生徒が荒れる傾向のある中、大谷は「ここにきてよかった」といつている。 ・保護者との連絡、欠席、成績の共有ができるＢＬＥＮＤはとてもよい。キャリア教育も、医師になっている卒業生などを迎え、より身近なものにしてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導	① 教員の授業力を向上 ②コースに応じた学力向上の取り組みを強化。 ③学習習慣の確立と基礎学力の定着。	① ・授業研鑽週間をⅢ学期に設ける。 ・I C Tを活用し、「新しい学力観」を生徒が習得できるための学習指導を工夫し、授業に活かす。 ・教務部と進路指導部が連携して、学習指導委員会を運営し、教育課程・シラバス・年間指導計画の妥当性のチェックと改善を行う。 ② ・管理職会議で、生徒の考查成績や模試成績を分析し、コースに応じた学力向上対策を実施する。 ③ ・学習習慣の確立と基礎学力定着のために小テストを実施する。 ・各学年の学習状況を、具体的に把握をする。	① ・中学、高校の授業をそれぞれ1回以上見学し、報告書を提出する。 ・一人一台のタブレットを活用し、リモート授業にも対応するとともに、生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、思考力、判断力、表現力を習得させる。 ・学習指導委員会による検討内容を全教員が共有し、学年間や教科間での連携、現状認識を徹底させ、授業の充実や学習指導の改善に活かす。 ・高校の新課程、新カリキュラム、観点別評価について、検証を行う。 ② ・考查や模試の偏差値で40以下となるような成績となる生徒をなくすとともに、各学年の中間成績層をのばす。 ・上位層の数を増やす。 ③ ・全員合格を目指して指導する。 ・成績不十分者には追試や課題などを与える。	① ・ほとんどの教員が授業研鑽を行い報告書を提出した。またその内容を管理職で共有した。(○) ・出席停止の生徒が出たクラスでは、スムーズに全教科のライブ授業の配信ができた。(○) ・学習指導委員会の資料等は、メタモジ(学習支援サービス)で、他教員も閲覧できるようにし、問題意識を共有した。(△) ・新カリキュラムのシラバスを各教科、高校1年～3年まで入力し、他教科の教員も閲覧可能とした。(△) ② ・各学年の生徒の定期考查・学力考查の成績を、B L E N Dで生徒、保護者に同時配信し、得点、クラス順位、コース順位、平均点などを開示し、生徒個人の学力到達度を教員とともに把握した。(○) ③ ・成績不十分者、及びハイレベルの講習も実施した(○)。
	① 個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導。 ②中高の六年間を生徒の成長に沿った適切な進路指導の展開。 ③キャリア教育を通じ、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できるための様々な取り組みを工夫。	① ・平常講習や長期休暇中の講習を実施する。 ・卒業生のチューターを活用して少人数の個別指導をしたり、体験談を聞く機会を設けモチベーションアップにつなげる。 ・中学校低学年においては、コース変更を柔軟に行い、それぞれの学習ペースに応じた学習環境を整える。 ・学習や進路についての個別面談をきめ細やかに行う。 ② ・生徒自らが適切な進路選択を行えるように、適切な時期に進路について考える機会を設け意識を促す。 ・模擬試験を活用し、自身の学習到達度を把握させる。 ③ ・生徒が将来の姿を思い描く手がかりになるように、様々なキャリア体験の機会を設ける。 ・大学の出前授業や外部団体による体験授業などを活用し、生徒のモチベーションのアップを図る。	① ・それぞれの講習の日程・回数・内容について、生徒のニーズに適っているか、7割以上の満足度を得られているかを確認する。 ・コースの目標に沿った学習計画・学習内容が展開されているか、確認する。 ② ・国公立大学の合格者数が在籍人数の2割を超えること、医学部医学科合格者数をのべ20名程度、関関同立の合格者数がのべ100名以上をめざす。 ③ ・学年ごとに将来の進路決定につながるキャリア行事を行う。 ・外部講師を招いての講演会を、高校各学年において1回ずつは実施する。 ・休暇中に実施される外部体験学習などへの参加を勧める。 ・報告文・感想文などを提出させる機会を多く設ける。	① ・コース制を生かした丁寧な進路指導を心掛け、様々な分野の講演会や出前授業、イベントを行い、生徒の満足度を向上させることができた。(○) ② ・国公立大合格数33名となり、在籍数の2割を超えることができなかった。共通テストの実受験者数をいかにして増やしていくかというのが、課題として残っている。(×) ・医学部医学科合格数が10名となり、20名という目標に到達することができなかった。(×) ・関関同立大ののべ合格数は129名で、目標を達成することができた。(○) ③ ・学年によっては、キャリア行事を行うことができなかった。(△) ・学年によっては講演会実施することができなかった。(△) ・受験の報告書やボランティア活動報告書は提出してもらっている(○)。

大谷中学校・高等学校				
3 生活指導	①「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」「時間厳守」。 ②生徒対象防災教育、SNSや薬物の危険性、心肺蘇生の講習などの実施。 ③教員対象に生活指導や生徒相談に関する研修を実施。学園カウンセラーとの連携などを通じた指導の充実。	① ・講堂朝礼や毎朝の登校指導において生徒たちへの声掛け指導を行う。 ・遅刻の多い生徒への個別指導を行う。 ② ・防災避難訓練の実施。SNS についての講演。 ・薬物についての講演。性被害についての講演。 ③ ・いじめに関する職員人権教育研修会を実施する。 ・学園カウンセラーによる職員研修を実施する。 ・学園カウンセラーとの情報交換を行う。	① ・生徒・保護者アンケート。遅刻指導の報告書。 ② ・生徒・保護者アンケート。危機管理についての意識付け。 ③ ・教員アンケート。	① ・講堂朝礼や毎朝の登校指導において生徒たちへの声掛け指導を行った。(○) ・遅刻の多い生徒への個別指導を行った。(○) ② ・防災避難訓練を実施できなかった。(×) ・SNS についての講演会を実施した。(○) ・薬物についての講演会を実施した。(○) ・性被害についての講演会を実施した。(○) ③ ・いじめに関する職員人権教育研修会を実施した。(○) ・学園カウンセラーによる職員研修を実施できなかった。(×) ・学園カウンセラーとの情報交換会を定期的に実施した。(○)
4 海外教育	①グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成。 ②異文化理解。 ③英語によるプレゼンテーションの向上。 ④ニュージーランド1年留学・3か月留学を通じて、実用的英語力の涵養。	① ・夏期海外研修・姉妹校交流などを推進する。 ・グローバル・イングリッシュ・ゾーン (GEZ) における活動を推進する。 ② ・ニュージーランド姉妹校オークランド・グラマー・スクールの生徒と「文通」を開始する。2学期末に本校生徒からの英文手紙を発送し、「文通」による交流を実践する。 ③ ・グローバル・イングリッシュ・ゾーンでの活動内容を充実させる。 ・SDG s に関わるテーマについて情報収集と交流をすすめる。 ・2023 年度アートマイル国際協働学習プロジェクト参加をめざす。 ④ ・NZ 留学の成果を他の生徒の前で発表させる。	① ・ニュージーランド夏期研修・オーストラリア夏期研修を通じて国際理解を深める。 ・GEZ におけるネイティブとの英語レッスンの参加者アンケートを実施。 ② ・ニュージーランド姉妹校生徒に対して本校生徒から手紙を発送し「文通」を実現させる。 ③ ・同世代の外国の学校と SDG s に関わる交流を実践して、相互理解を通じて世界的な課題を認識して、現状認識を将来の展望について考えさせる。 ④ ・一人もしくは少数者による英語プレゼンテーションを数多く経験させて、実用英語力の定着を図る。	① ・夏期海外研修・姉妹校交流などを推進した。(○) ・GEZ における活動を推進し、充実したものとなった。(○) ・参加者アンケートでは「もっと外国人と話したい。」「海外に行きたい。」「スピーチコンテストに出たい。」など積極的な意見が多く見られた。(○) ② ・ニュージーランドに限らず、他の姉妹校とも幅広く SNS を通じて交流を深めている。(△) ③ ・同世代の外国の学校と SDG s に関わる交流を行ったが、将来の展望についての考察には至っていない。(△) ・2023 年度アートマイル国際協働学習プロジェクトには参加できなかった。(×) ④ ・NZ 留学の成果を他の生徒の前で発表し、他生徒の意欲向上につなげることができた。(○)
5 生徒募集・ 広報活動	①＜中学校入試＞入試行事参加者を増やし、募集定員確保のための積極的に広報活動。 ②＜高校入試＞幅広く周知できるよう広報活動を徹底し、募集定員確保。	① ・参加人数だけでなく、行事の質を担保することで、参加者の満足度を高める。 ② ・塾訪問の回数を維持すると同時に、新たに訪問する塾を増やす。 ・公立中学訪問の回数を維持すると同時にダイレクトメールなどで、入試情報提供を行う。	① ・参加者アンケートの分析。 ・出願者の通塾先の分析。 ② ・出願者の出身中学の分析。 ・本校説明会や外部相談会本校ブース参加者の人数。	① ・おおむね満足であると回答を得ることができた。(○) ・例年の分布に近いが浜学園からの出願が増えている。(○) ② ・大阪市内からの受験生数を大きく増やせた。(○) ・募集定員確保は成らずとも、出願数・入学者数ともに伸ばすことができた。(○)

2023年度 生徒アンケート

大谷中学校・高等学校

856名

質問番号	質問内容	そう思う	どちらかといえば そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	
A	朝礼、終礼にまじめに取り組んでいますか。	61%	32%	6%	1%	
B	日常、その場に応じた適切な言葉遣いができていますか。	44%	48%	8%	1%	
C	日常生活で時間を守って生活できていますか。	45%	42%	10%	3%	
D	挨拶・礼はできていますか。	60%	35%	4%	1%	
E	授業は理解できていますか。	27%	52%	17%	4%	
F	小テストや講習にまじめにとりくんでいますか。	35%	46%	16%	4%	
G	毎日、家庭学習はできていますか。	30%	38%	25%	7%	
H	学校で実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは将来を考えるための機会になっていると思いますか。	36%	41%	16%	7%	
I	大谷の海外研修や留学生との交流により国際理解が深められていると思いますか。	38%	38%	15%	9%	
		十分に 気をつけている	気をつけている	あまり 気をつけていない	気をつけていない	SNSを利用してい ない
J	家庭でSNSを利用する時に情報モラルに気をつけていますか。	49%	41%	4%	1%	5%
		よく見ている	見ている	あまり見ていない	見ていない	
K	大谷のホームページを見ていますか。	12%	23%	34%	30%	
		そう思う	どちらかといえば そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	
L	大谷の部活動は活発だと思いますか。	40%	43%	12%	5%	
M	学校行事に積極的に取り組んでいますか。	54%	39%	6%	2%	
N	家族と話し合う時間が取れていますか。	62%	30%	5%	3%	
O	大谷の先生はあなたを大切にみてくれていますか。	38%	43%	12%	7%	
P	現在のクラスに満足していますか。	56%	31%	9%	5%	
		学習活動	学校行事・部活動	友人との関係	先生との関係	環境・雰囲気
Q	大谷中学校・高等学校に入学して1番満足していることは何ですか。	8%	24%	53%	4%	11%

2023年度 保護者アンケート

質問番号	質問内容	そう思う	どちらかといえば そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	
A	大谷の教育理念・教育方針について賛同されていますか。	57%	38%	4%	1%	
B	お嬢様は日常、その場に応じた適切な言葉遣いができていますか。	36%	53%	10%	1%	
C	お嬢様は日常、時間を守って生活できていますか。	37%	45%	15%	4%	
D	お嬢様は日常、挨拶ができていますか。	37%	45%	15%	4%	
E	大谷では生徒のニーズに対応した教育課程や学習指導がなされていると思われますか。	37%	45%	15%	4%	
F	保護者の方に生徒の学習状況・成績等はわかりやすく伝わっていますか。	37%	45%	15%	4%	
G	お嬢様は家庭学習の習慣が身についていると思われますか。	44%	43%	11%	2%	
H	大谷が実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは、お嬢様が自分の将来を考えるための機会になっていると思われますか。	31%	48%	17%	4%	
I	大谷の海外研修や留学生との交流により、国際理解が深められていると思われますか。	23%	47%	24%	6%	
		そう思う	どちらかといえば そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	SNSを利用していない
J	お嬢様はSNSやスマートフォンの利用について、ご家庭での使用方法などの決まりを守っておられますか。	27%	41%	22%	9%	2%
		そう思う	どちらかといえば そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	
K	大谷のホームページを見ておられますか。	27%	34%	26%	13%	
L	大谷のPTA活動は活発だと思われますか。	14%	55%	28%	4%	
M	保護者あての文書・連絡等は適切であると思われますか。	49%	42%	8%	2%	
N	ご家庭でお嬢様と話し合う時間が取れておられますか。	55%	40%	4%	1%	
O	大谷は生徒の安全面で事故の防止に配慮していると思われますか。	43%	48%	6%	2%	
P	大谷では生徒に関するプライバシーが守られていると思われますか。	42%	49%	6%	2%	
Q	大谷が保護者の方とお話する機会をもっていると思われますか。	30%	50%	15%	5%	

2023年度 教員による学校自己評価

99名

項目 番号	各項目について、下の1～4のうち、もっともあてはまるものを選び、回答欄に数字を記入してください。 1：そう思う 2：どちらかといえばそう思う 3：あまりそう思わない 4：そう思わない	中高全体 (%)			
		1	2	3	4
1	学校の教育方針、教育目標、年度毎の努力目標について周知されている。	22.2	47.5	17.2	13.1
2	生徒の実態を組織的に把握し、教育課題を明らかにできている。	18.2	41.4	26.3	14.1
3	教育課題解決のための組織が機能し、解決のための方策を具体化している。	16.2	36.4	33.3	14.1
4	学校の教育課題について、教職員でよく話し合っている。	24.2	36.4	25.3	14.1
5	各年度の教育計画の作成に当たって、教職員でよく話し合っている。	21.2	35.4	30.3	13.1
6	建学の精神である「宗教的情操教育」が教育活動全体を通じて実践できている。	34.3	43.4	11.1	11.1
7	朝礼、終礼時には瞑目や合掌、讃歌斉唱がきちんと実践できている。	61.6	28.3	5.1	5.1
8	今年度の生活指導の目標を意識して生徒指導ができている。	27.3	42.4	20.2	10.1
9	宗教的行事（はなまつり、報恩講、追弔会、了秀忌、早朝勤行など）が意義あるものとして実施できている。	45.5	38.4	7.1	9.1
10	教職員に対する宗教教育研修が意義あるものとして実施できている。	20.2	44.4	22.2	13.1
11	新しい教育課題や生徒のニーズに対応した教育課程が工夫されている。	13.1	39.4	33.3	14.1
12	教科毎に学習指導計画を立て、指導にあたっている。	39.4	39.4	10.1	11.1
13	年間の学習指導計画について、各教科内でよく話し合っている。	29.3	35.4	23.2	12.1
14	学習指導計画について、他教科とも情報交換し連携している。	14.1	15.2	48.5	22.2
15	学習指導計画は各コースの特性を踏まえたものになっている。	27.3	37.4	22.2	13.1
16	学習指導計画は生徒の実態を踏まえたものになっている。	20.2	36.4	30.3	13.1
17	生徒の思考を促す授業を心がけている。	32.3	43.4	11.1	13.1
18	日常の教科指導において教員間で個々の生徒に関する情報を交換し、協力して指導にあたっている。	35.4	39.4	13.1	12.1
19	到達度の低い生徒に対する学習指導において、個別対応等を含めて工夫している。	24.2	41.4	23.2	11.1
20	学習意欲の高い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫を行っている。	20.2	52.5	17.2	10.1
21	授業に対する生徒の興味・関心を引き出すよう、体験学習や問題解決学習など多様な指導を工夫して取り入れている。	24.2	38.4	27.3	10.1
22	教員間の参観等で授業内容を相互に評価するなど、学習指導力の向上に努めている。	27.3	32.3	28.3	12.1
23	学校内外の研修に参加し、学習指導の向上に努めている。	21.2	26.3	33.3	19.2
24	研修や研究の成果を報告し、校内全体で共有できるように努めている。	13.1	23.2	41.4	22.2
25	新任教員に授業方法の伝達指導を行うなど、育成に努めている。	16.2	26.3	28.3	29.3
26	授業参観や保護者懇談会などを通じて、本校の学力向上の取り組みが保護者にもよく理解されている。	16.2	52.5	22.2	9.1
27	評価のあり方について検討する機会がある。	21.2	33.3	27.3	18.2
28	生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、各学年に応じた系統的な進路指導を行っている。	21.2	41.4	21.2	16.2
29	生徒一人一人が興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている。	21.2	41.4	22.2	15.2
30	本人の適性に応じて学内でのコース変更や受験校選定指導をいねいに行っている。	29.3	41.4	17.2	12.1
31	私物のコンピュータ等のセキュリティ対策ができている。	36.4	39.4	12.1	12.1
32	ICT機器を利用した授業を実践している。	42.4	38.4	12.1	7.1
33	様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心がけている。	26.3	44.4	16.2	13.1
34	生徒指導において、カウンセリングマインドを持って生徒に接するよう教職員の共通理解が得られている。	18.2	46.5	22.2	13.1
35	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員やカウンセラーとも相談することができる。	34.3	43.4	10.1	12.1
36	生徒指導において、家庭との緊密な連携ができている。	27.3	51.5	11.1	10.1
37	生徒に接する時、挨拶や適切な言葉遣いができている。	35.4	45.5	7.1	12.1
38	校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、教職員の間で話し合う機会がある。	13.1	29.3	32.3	25.3
39	問題行動の指導にあたっては、規定を機械的に当てはめることなく、個々の生徒の行為に応じて適切に指導している。	29.3	46.5	11.1	13.1
40	いじめ防止のための取り組みや体制づくりに努力している。	27.3	49.5	12.1	11.1
41	人権教育の推進について計画的に取り組んでいる。	27.3	43.4	19.2	10.1
42	人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合う機会がある。	18.2	25.3	32.3	24.2
43	人権教育の推進に取り組むための研修が行われている。	29.3	38.4	21.2	11.1
44	海外教育の取り組みによって国際理解が深まっていると思う。	28.3	43.4	20.2	8.1
45	学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	27.3	45.5	16.2	11.1
46	生徒会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを経て、主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	24.2	43.4	19.2	13.1
47	部活動が盛んで、生徒もよく参加している。	30.3	33.3	26.3	10.1
48	ホームページや学校説明会などを通じて、本校を理解いただくための情報提供が適切になされている。	29.3	46.5	13.1	11.1
49	学校の経営状況について教職員が理解している。	16.2	32.3	24.2	27.3
50	学園本部と学校との意志疎通が適切になされている。	9.1	14.1	31.3	45.5

2023(令和5)年度 生徒・保護者・教員アンケート概要

別紙の項目について、〔1:そう思う・2:どちらかといえばそう思う・3:あまりそう思わない・4:そう思わない〕のアンケートを実施した。

【生徒による自己評価アンケート】

○生徒の評価が高い項目

- ・朝礼・終礼にまじめに取り組めている
- ・日常、その場に応じた適切な言葉遣いができている
- ・時間を守れている
- ・挨拶、礼ができている
- ・小テストや講習にまじめに取り組めている
- ・家庭でSNSを利用するときに情報モラルに気を付けている
- ・大谷の部活動は活発である
- ・学校行事に積極的に取り組んでいる
- ・家族と話し合う時間が取れている
- ・大谷の先生は自分を大切にしてくれる
- ・現在のクラスに満足している

○生徒の評価が低い項目

- ・毎日家庭学習をしている
- ・学校のホームページを見ている

【保護者による自己評価アンケート】

○保護者の評価が高い項目

- ・大谷の教育理念、教育方針に賛同している
- ・子供は適切な言葉遣いができている
- ・子供は時間を守って生活ができている
- ・子供は挨拶ができている
- ・大谷では生徒のニーズに対応した教育課程や学習指導がなされている
- ・保護者に生徒の学習状況、成績は伝わっている
- ・保護者あての文書、連絡は適切である
- ・家庭で子供と話す時間が取れている
- ・大谷は生徒の事故防止に配慮している
- ・大谷では生徒のプライバシーが守られている
- ・大谷は保護者と話す機会を持っている

○保護者の評価が低い項目

- ・子供は家庭学習の習慣が身についている
- ・子供は家庭学習の習慣が身についている子供はSNSやスマートフォンの利用について、家庭での使用方法などの決まりを守っている

【教員による自己評価アンケート】

○教員の評価が高い項目

情操教育に関連する項目

- ・朝礼、終礼時に名目や合掌、讃歌斉唱がきちんと実践できている
- ・宗教的行事（花まつり、報恩講、追弔会、了秀忌、早朝勤行など）が意義あるものとして実践できている

学習指導に関連する項目

- ・教科毎に学習指導計画を立て、指導に当たっている
- ・生徒の思考を促す授業を心がけている
- ・日常の教科指導において教員間で個々の生徒に関する情報を交換し、協力して指導にあたっている
- ・ICT 機器を利用した授業を実践している

生活指導に関連する項目

- ・教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員やカウンセラーとも相談することができる
- ・生徒に接するとき、挨拶や適切な言葉遣いができている
- ・問題行動の指導にあたっては、規定を機械的に当てはめることなく、個々の生徒の行為に応じて適切に指導している
- ・いじめ防止のための取り組みや体制づくりに努力している

学校経営に関連する項目

- ・ホームページや学校説明会などを通じて、本校を理解いただくための情報提供が適切になされている

○教員の評価が低い項目

学習指導に関連する項目

- ・学習指導計画について、他教科とも情報交換し連携している
- ・新任教員に授業方法の伝達指導を行うなど、育成に努めている
- ・研修や研究の成果を報告し、校内全体で共有できるよう努めている

生活指導に関連する項目

- ・校則が生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、教職員の間で話し合う機会がある

学校経営に関連する項目

- ・学園本部と学校との意思疎通が適切になされている

令和 5(2023)年度学校関係者学校評価委員会 結果報告

令和 6 年 6 月 25 日（火）に令和 5(2023)年度学校関係者学校評価委員会を対面にて実施した。外部委員の方々の学校評価に対するご質問や貴重なご意見をいただいた。以下、課題、対策、質問、意見を報告する。

1. 課題 学習指導について

- a. 中期的目標①「学習指導を工夫し、教員の授業力を向上させる。」
- b. 中期的目標②「コースに応じた学力向上の取り組みを強化する。」
- c. 中期的目標③「学習習慣の確立と基礎学力の定着をはかる。」

対策

- a. 中 1 ・ 中 2、高 1 ・ 高 2 の 4 学年の生徒が一人一台の iPad を持つようになり、教員側も授業での ICT 機器活用はかなり増えた。また ICT 活用により、生徒の理解を深め、主体的に学ぶ意欲を高めることとなった。また、校長による、全教員の授業参観も行われ、授業力の向上への意識が高まった。
- b. 学習指導委員会、学年会議、教科会議及び模試分析会で各学年の学力状況を共通認識、課題を共有していく。BLEND にて、定期テストや学力テストの成績を、生徒、保護者に同時配信し、得点、クラス順位、コース順位、平均点などを開示し、生徒各個人の学力到達度を全教員が把握できるようになった。
- c. 成績不十分者、及びハイレベルの講習も実施した。小テストの合格目標、漢検・英検の取得級目標を立てさせる。具体的な課題解決や目標設定は主体的に学習に取り組む姿勢および家庭学習の習慣にもつながっていく。しかし、まだまだ家庭学習の習慣の定着には課題が残っている。

2. 課題 進路指導について

- a. 中期的目標①「コース制を生かした丁寧な進路指導」
- b. 中期的目標②「進路指導の取り組み」

対策

- a. 令和 5 年度より高 1（6 か年）で S 医志クラス・S 理系クラス・S 文系クラスの 1 年目がスタートしている。様々な分野からの講演会などを企画し、中学生・高校生ともに将来の夢や進路を考えさせていく。
- b. 令和 5 年度生は、コロナが 5 類になった影響で、コロナ前と同様の企画を実施できるようになった。看護師の出前授業（中 3）、弁護士出前授業（高 3）、保育士体験（高 1 希望者）大阪府看護師体験（高 2 希望者）な

どを実施した。

医系予備校の志望理由書講演会や、面接指導を実施した。医学部医学科に合格した生徒にもたいへん好評だった。また、S 医志クラスのための企画として、医学生とディスカッションをするイベントを実施した。今年度も医系予備校と連携をとって、同様にやっていきたいと思っている。

3. **課題** 生活指導について

a. 中期的目標① 「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」について

b. 中期的目標② 防災避難訓練の実施について

対策

- a. 「自分からあいさつできる」についてはまだまだ時間が必要で地道に教員から声掛けをし「あいさつ」を今後とも継続して行っていく。「ていねいな言葉遣い」については教員自身が「ていねいな言葉遣い」を心掛けいく必要がある。不適切な言葉遣いをした生徒に対して注意喚起を行う。
- b. 令和5年度も雨天中止のため避難訓練を実施できなかった。年度当初に学年・クラス単位で必ず避難経路の確認を行い防災に対する意識を高める。学年講堂朝礼に於いて防災に対する話をし、常日頃から災害時の対策を意識させご家庭でも防災について話す機会をもってもらう。

4. **課題** 海外教育について

a. 中期的目標①「国際感覚の育成」について

対策

- a. 今年度も1月から海外留学（3か月・1年）へ凜花コース生徒（高1・5人）が参加。夏期オーストラリア・ニュージーランド研修も再開できた。令和4年4月から始まったGEZ（グローバルイングリッシュゾーン）においてのネイティブとの英会話レッスンにおいて、なお一層中身を充実させて国際感覚を育成した。2月に行った英語スピーチコンテストには20人の生徒が参加し、かなりレベルの高いものとなった。

5. **課題** 生徒募集・広報活動について

a. 中期的目標①中学入試での入試行事参加者をふやす

b. 中期的目標②高校入試での募集定員確保

対策

- a. ①ホームページをリニューアルし、大谷高校の魅力について今までと違ったアピールができた。入試行事に関しても積極的にホームページで告知し、参加者増につなげることができた。
- b. ②高校入試では、今年度大阪市内からの受験生数を大きく増やせた。このことは、大谷の高校入試が近隣に周知されてきたことの証であると考えている。また、公立の文理学科を併願で受験した受験生の戻りが増加したことで、プレミアムの位置づけが浸透してきたと思われる。

5.萩原校長より、令和6年度 学校評価について

本来なら、意見を頂いてからの計画であるべきが、時期がずれていて申し訳ない。

目指す学校像は本校の理念にかかることなので変わっていない。中期的なところで文言を変えた。「自ら学びに向かう姿勢」を入れた。誰かが教えてくれる、答えが簡単に見つかる時代ではない、中学高校のうちに自分でいかにしっかり考えるかという姿勢が将来社会に出た時に役に立つ。また、放課後に学校の中に外部塾を入れたO.S.R.を始めた。その内容は「個別最適学習」である。週1日～2日、決められた時に集まり、それぞれ自分の課題に応じた勉強をしようという取り組みである。勉強を自分で考えて、継続して勉強することへの慣れ、基礎の定着というあたりを目的として、今年4月から始めた。保護者の金銭的負担はお願いしているが、概ね好評である。

自分で勉強するという姿勢ができれば、大学受験のみならず、社会に出た時に必ず役に立つ。また、授業最優先の姿勢の取り組み内容では、「校長による授業参観」を入れる。生徒にも、その都度声かけをした。全員に「なぜ」という問いを入れてくださいと各教員に言っている。「なぜ」は、必ず頭を使う。参観のあとは、先生方にその授業での気づいたことを書き出し、ペーパーとして返却し、振り返りを促した。

文科省の施策で「DX ハイスクール」がある。文科省はデジタル関連の人材育成のため、大学の教育に留まらず、高校でも数学・理科と融合して課題研究に繋げていく学校を募集し、手を挙げ本校は採択された。高校段階からしっかり触れさせて、素養を身につけさせるのはプラスになる。どうやって具体化していくかを考えている。新たな学びということで、本校の目玉にしていきたい。

入試広報、一度きてもらった方にはデータベースにしていこうとしている。こういう取り組みをやりますというところを伝えていく。

高校生には、出身中学校に手紙を持って行かせる。そういう繋がりを大事にしている。

学校経営計画は、先生方全員に校長から年度はじめに説明をした。

☆評価委員の方々からのご意見

【中期目標1 学習指導について】

- ・ 凛花コースはとてもよい教育内容を行っている。他のコースも含め、大谷は伝統のある先生方もとても親身になって生徒・保護者に接してくれる学校である。PRをもっとしてほしい。
- ・ 今年度導入された放課後学習システムはとても満足している。他校では、第一志望でない生徒が荒れる傾向のある中、大谷は子どもたちが「ここにきてよかった」といっている。
- ・ 大谷は理系教育が有名であるが、グローバル教育とともに、日本古来の文化を重視

していくことも大切であると考える。(凜花コースは、華道・茶道も取り入れている)

【中期目標 2 進路指導について】

- ・キャリア教育も医師になっている卒業生などを迎え、より身近なものにしたい。
- ・進路指導の長期的な目標を明記して、目標とする学校像を示すのもよいと思う。

【中期目標 3 生活指導について】

- ・生活指導部より挨拶についての話があったが、大谷中高の生徒は、本校の前を何人か通るが、挨拶をすれば必ず返してくれる。小学生でもなかなか挨拶は定着していないが、大谷の教育はとても大切なところを押さえている。防災避難訓練は中高生は支援する側に立つことになるので、継続してやってほしい。
- ・教育プロの月刊誌の裏表紙と表表紙に大谷と東大谷を掲載させてもらっているが、実在している生徒の写真の表情もとてもよい雰囲気である。「挨拶」は本当に大事であると、うちの顧問も力説している。先生方が毎日挨拶をしているとそういった雰囲気になる。教育する姿勢を正す根本は「挨拶」であり、宗教がバックボーンにあり、精神的な教育をしている大谷は強いと思う。
- ・教育現場で、SNS対応や、薬物への知識は大切であり、生徒に及ぼす悪影響が大きいことを、危機感を持って伝えることが大切である。

【中期目標 4 海外教育について】

- ・海外教育で、SDGsに関するお話があったが、小学生でもやっているの、高学年ではどう展開するのか気になった。

【中期目標 5 生徒募集・広報活動について】

- ・小学生の保護者と話していると、私学進学に対する意識が高い。私学は受験生の取り合いになるかと感じる。大谷は理系教育に力をいれており、サイエンスフェスタの案内チラシなども本校に届いており浸透していると感じる。
- ・中三が進路選択をするにあたって、年々公立離れを感じている。私学はそれぞれ魅力のあるコースを作られており、自分にあったところを選択する生徒が増えてきている。大谷の生徒の様子をみても、とてもよい雰囲気を感じるが、6年一貫のイメージが強く、高校からの進学のハードルが高いように思われている。総じて学校がしっかり教育されている感じを受ける。

【その他意見】

- ・アンケートの結果をみても、総じてしっかりとした教育ができていると思う。生徒への質問に「学校の教育に満足しているか」といった直接的な問いがあってもよいと思う。
- ・保護者との連絡、欠席、成績の共有ができるBLENDはとてもよい。